

園・校 みんなでつくる 保幼小接続・連携

～持続可能な取組にするために～

津市教職員研修会において、三重大学教育学部富田昌平教授による津市架け橋プログラムについてのご講演をいただきました。保幼小の接続・連携が注目されてきた理由として、世界的な幼児教育への関心の高まり、非認知スキル（自尊感情、自制心、粘り強さ等）のインパクト、主体的・対話的で深い学びの実現があることをお話いただきました。

また、富田教授のお話を拝聴し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」については、到達目標ではなく方向目標。円滑な接続を実現するための説明言語として活用するものであることなど、「10の姿をもとに子どもの姿をとらえ、伝え合う」ことが大切であることを再認識しました。

保幼小接続・連携を持続可能な取組にするためには、「カリキュラムづくりは手段とし、先生方が、楽しく交流し、お互いを理解することが大切である」という重要なポイントを確認することができ、今後の取組の方向性が明確になり、接続・連携の取組が楽しみになるような研修

<保幼小接続・連携を持続可能なものにするために>

- 「10の姿」を共通言語にしてつながる
- 楽しく、手軽に、たっぴりと交流できる場づくり
- カリキュラムは、ラフなスケッチで良しとする



<参加者の声>

担当者だけで連携するのではなく、全職員で共通理解し、架け橋期の子どもの全員で見守る連携をしたい。（小学校関係者）

「10の姿」をもとに子どもの姿をとらえ、しっかりと伝えることのできる発信力を磨いていきたい。（幼稚園関係者）

子どもたちの交流も大切に、それ以上に教師同士が交わることで、よい接続・連携ができると思う。大変さはあると思うが、それ以上に得るものが多いと思うので、進めていきたい。（幼稚園関係者）

たのしく、やりがいのある取組にしていきたい。（小学校関係者）

